

1. 長方地区 8haの南端と「道の駅」

那珂市「道の駅」基本設計案／4棟設置、25年度に実施設計 2025/01/16 日本工業経済新聞(茨城版)

(令和7年度)9月議会に審議

那珂市は、「道の駅」の基本設計(案)を公表した。2025年度に実施設計をまとめ、26年度には造成工事、27年度からは本体工事を行い、28年度の供用開始を目指している。施設は、南棟、西棟、東棟、北棟に分かれる。概算事業費は、建築工事 19.1億円、外構工事 6.4億円、造成工事 3.8億円で計 29.3億円を試算。

道の駅の建設予定地は、常磐自動車道那珂IC西側の飯田押敷交差点北西側(飯田地内)。前道路は都市計画道路菅谷飯田線(バードライン)と県道 65 号那珂インター線。

敷地面積は約4.3ha。

基本設計はエイプラス・デザイン(水戸市)が担当。著名な建築家である藤森照信氏に建築アドバイザーを依頼している。

コンセプトは「中心となる資源の抽出、そこで生み出されるコンテンツを循環させる輪の創出、さらにシビックプライドの醸成まで至るように設計」。道の駅を含む一帯の「大地」にフォーカスした、地元産へのこだわりを表現している。

南棟(約820㎡)には2階建てで1階には、店舗(125㎡)、エントランス(130㎡)、バックヤード(180㎡)として、倉庫や事務室、休憩室などの機能を備える。

2階には、フードホール(375㎡、108席)に、客室、厨房、小荷物専用昇降機などを整備する。また、吹抜も設置する。

西棟(約975㎡)では、観光物産販売所(195㎡)、農産物直売所(385㎡)、バックヤード(395㎡)を整備。

東棟(約500㎡)については、多目的・カフェスペース(120㎡)、道路情報・無料休憩スペース(100㎡)、トイレ(200㎡)、ベビールーム(30㎡)などを設ける予定だ。

北棟(約530㎡)においては、全天候型プレイゾーン(約490㎡)と倉庫(約40㎡)を整備する。プレイゾーンでは、プレイルーム、管理室、ロッカースペース、ベビーケアルーム、トイレを設けている。

概算事業費は 29.3億円 を試算しているが、補助金等の活用を視野に入れているため、実質的な市の負担額は9.6億円となる計画だ。

< 那珂市の場合の財源内訳 > --- 別紙

補助金等 新しい地方経済・生活環境創生交付金;10億円 社会資本整備総合交付金;0.3億円 県整備分;0.1億円 交付税措置 市債(交付税措置分);9.3億円 ……交付税措置分は合併特例債!

実質的な負担額 9.6億円(市債(市負担分);8.3億円 一般財源;1.3億円)

※ 桜川市はこうならない。合併特例債分 9.3億円は使い切っていて使えない。

仮に同額の費用が掛かるとして、市の実質負担は 17.9億円となる。→ 実際にはつくた"けど"

で実際には30億以上かかるのは必定!



20億円程度が市の実質負担となり、他の財政需要を圧迫することになるのは、必定!

加えて山市場を見ても明らかに赤字になるのは必定!

無責任の極みと言うべきである! 々々